

## 様式第 5 号（教育実習実施計画に関する書類）

教 育 実 習 等 実 施 計 画	
1	教育実習等の内容及び成績評価等
①	教育実習等の時期 4 年次 4 月～11 月
②	教育実習等の実習期間・総時間数 小学校 4 週間（120 時間）中学校 3 週間（120 時間）高等学校 2 週間（60 時間）
③	実習校の確保の方法 麻生総合高等学校、青葉台中学校、鉄小学校及び系列校である桐蔭小学校など大学周辺の学校を実習先として準備しているが、実習を希望する学生が多い為各自治体教育委員会の一括申請を利用して実習先を確保する予定であり、それでも受入れが困難な学生は、当人に縁のある学校で内諾を得て実習先とする予定である。
④	実習内容 主に、実習先の指導教員に従いホームルーム、授業等を担当する。また必要があれば、特別活動及び部活動等の指導補助を行う。
⑤	実習生に対する指導の方法 予め、本学担当教員及び実習受入先と協議を行い訪問指導を実習期間中に 1 回実施する。
⑥	実習の成績評価（評価の基準及び方法） ※ 評価項目表、評価シート等がある場合は、本計画書に添付すること。 実習校から提出された評価票に基づき、教職課程委員会総合的に評価を決定する。評価票については添付を参照。
2	事前及び事後の指導の内容等
①	時期及び時間数 新年度 4 月から全ての教育実習が終了する 12 月までに 8 回程度実施する。
②	内容（具体的な指導項目） 【事前指導】（20 時間） ・教育実習における体験概要の確認 ・指導担当教科における指導案作成最終確認 ・教育実習期間中の心構え ・教育実習先の校種ごとに分かれグループワーク（実習前の担当教科に関する検討及び調査）

【事後指導】（25 時間）

- ・ 実習先の校種ごとに分かれグループワーク（課題及び解決策の模索・検討）
- ・ 教育実習後における学生の総評・振り返り
- ・ 実習校で実際に行った授業の再現
- ・ 次年度教員採用試験合格後の心構え

3 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等（以下「委員会等」という。）

① 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

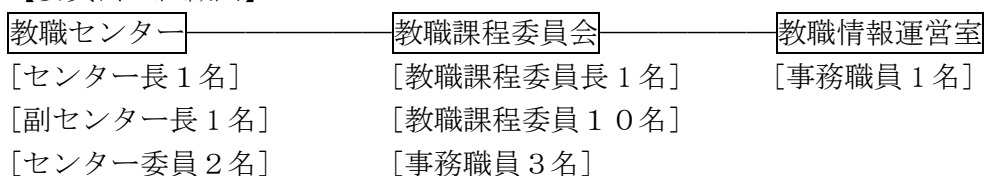
- ・ 委員会等の名称  
教職センター

- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）  
教員 4 名（教授 3 名）

- ・ 委員会等の運営方法

毎月教職センター会議を行い、教職課程におけるカリキュラム編成及び教員採用試験等の調査を行う。

【委員会の組織図】



② 大学外の関係機関（例：都道府県及び市区町村教育委員会など）との連絡調整等を行う委員会等  
（※学校体験活動を含む場合は、大学と学校との連携体制についても記載すること。）

- ・ 委員会等の名称

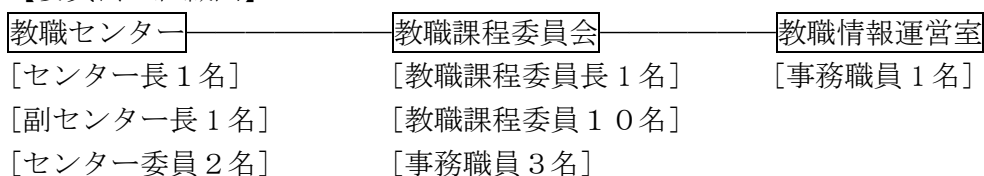
教職センター

- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）  
教員 3 名（教授 3 名）

- ・ 委員会等の運営方法

毎月教職センター会議を行い、教職課程におけるカリキュラム編成及び教員採用試験等の調査を行う。

【委員会の組織図】



#### 4 教育実習の受講資格

教育実習を受講するためには、原則として「事前・事後指導」、「教育実習」と「教職実践演習」を除く、教育職員免許状取得のための授業科目の未修得が3年次終了時点で1科目以下でなければならない。（教育職員免許状取得に関わる科目のほぼ全てを修得済みであることが望ましい。）

なお、教育実習の受講を希望する者は、3年次前期終了時までのGPAが2.3（これまで学生が受講した全科目累計値）以上、さらに3年次終了時点で修得単位が卒業見込証明書発行基準に達していることとする。

#### 5 実習校

教育 実習	体験 活動	学級数の合計	幼稚園○学級、小学校○学級、中学校○学級、高等学校○学級、特別支援学校○学級		
○		教育委員会名	東京都教育委員会	小学校：4校	中学校：9校
○		教育委員会名	横浜市教育局	小学校：15校	中学校：17校

# 教育実習生評価票

桐蔭横浜大学

実習生氏名					学科				
					学籍番号				
実習校名					担当学年				
					教科				
学校長	⑩				指導教員	⑩			
実習期間	令和      年      月      日～      月      日      (      週間)								
出勤状況	出勤 日数		欠勤 日数		病 欠 日	遅 刻 日	備考		
		日		日	事故欠 日	早 退 日			
項目 毎 評 価	評価項目	着 眼 点				評 価	備 考		
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究、指導計画の立案</li> <li>授業の展開方法と指導技術</li> <li>生徒の掌握と安全管理</li> <li>評価方法の適正、評価結果の整理・考察・活用</li> <li>教具の管理</li> </ul>							
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の理解</li> <li>発達段階や個人差・性差に対する配慮</li> <li>指導の態度や言葉づかい</li> </ul>							
	指導力	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育的な見識と専門的な学力</li> <li>熱意・努力・創意・工夫・研究心</li> </ul>							
	勤務	<ul style="list-style-type: none"> <li>出勤状況と勤務態度</li> <li>特別活動への関心と参加</li> <li>各種の研究活動への参加</li> <li>学校の組織運営全般に関する理解</li> </ul>							
総合 所 見						合 計			
						点			
						総 合 評 価			
						12～ 10	9～7	6～5	4～
	A	B	C	D					

- (備考) 1. 項目毎の評価は「着眼点」の項目を参考に、総合的に評価して下さい。  
 2. 評価法は3点法を用い、3－優れている 2－普通 1－劣っている を基準にして下さい。